

児童教育を支援する  
「博報財団」が、すぐれた  
取り組みを顕彰する

# 第49回「博報賞」受賞

## 教育活性化部門

# 大阪府 ● 大阪府中学校演劇協会

70年間、年に2回  
開催され続けてきた  
中学生による演劇祭

2018年11月25日、大阪  
市立平野区民ホールには、中  
学生がよく通る声が響いてい  
た。この日は、大阪府中学校  
演劇協会が主催する大阪府中  
学生演劇祭の最終日。2日間  
にわたり、21校が最優秀賞を  
目指して練習の成果を披露す  
る。舞台上で熱演する生徒は  
もちろん、客席でステーンを  
見つめる他校の生徒のまなざ  
しも真剣そのものだ。

140回目を迎えた。  
「終戦からわずか2年、まだ  
教科書も十分にない時代に当  
協会の前身となる大阪新中  
学校演劇協会は設立されまし  
た。廃墟の中で、子どもたち  
に夢と希望を与えようと、志  
ある教員が集まり活動が始  
まったのです。その志を受け  
継ぎ、現在も演劇、とりわけ  
創作劇活動を通して、中学生  
の「生きる力」を育むことを  
推進しています」と語るのは、  
当協会会長で、大阪市立勝山  
中学校の原口貴美子校長だ。  
第1回の演劇祭は、焼け跡  
に建った体育館に集った7校  
で開催されたという。いまだ  
生活すら厳しい状況で、演劇  
を教育の一貫として位置づけ  
たのには、理由があった。

「苦しい暮らしの中であって  
も、演劇では5年後、10年後  
の未来や夢を表現することが  
できます。それは大きな希望  
になり、生きる力につながっ  
たのだでしょう」(原口会長)

また、1973年の春の演  
劇祭からは発表を創作劇(課  
題創作劇)に限定、さらに  
1988年からは秋も創作劇  
に限るとした。  
「創作劇に限定するという

「創作劇に限定するとい

「創作劇に限定するとい

決断までには、喧々譁々の議  
論が繰り返されました。そ  
れまではシェイクスピアの戯  
曲の1場面を演じる学校もあ  
りましたが、我々の取り組み  
の主軸は、あくまでも教育活  
動にあります。生徒たちが身  
の回りにある問題や課題に目  
を向け、向き合い、仲間たち  
と考えを重ねていくことこそ  
が、当協会のテーマ。そうで  
あれば、生徒や教師が創作し  
た脚本を生徒自らが演じる創  
作劇がふさわしいと考えたの  
です」と話すのは、前協会理  
事で顧問の永井道雄さんだ。  
その言葉通り、今回の演劇祭  
でも、大人では見過ごしてし  
まうような、10代前半の中学  
生だからこそ発見できるテー  
マ、この年齢でしかできない  
表現が光を放った。

### 自分たちの身近な テーマに向き合い 仲間と創作する

「こんな小さな画面にビクビク  
しているなんて」  
これはソーシャル・ネット  
ワーキング・サービス(SNS)  
に翻弄される生徒たちの

姿を描いた上演作品  
の中で発せられたセ  
リフだ。  
「セリフを聞いてド  
キリとしました。今  
の子どもたちは、S  
NSの普及によって  
コミュニケーション  
の方法が大きく変化  
してきています。楽  
しい反面、すぐにレ  
スポンスをしない  
といけないプレッ  
シャーも大きく、彼  
ら自身、しっかりと  
と課題意識を持っているのだ  
と分かりました。中学生の段  
階で乗り越えるのは難しくても、それを舞台上に上げることで、問題意識を持つことが重要なのです」と話すのは、審査員の秦比左子さんだ。こうした身近な問題に着目する訓練は、同協会が開催している中学生と指導者のための3泊4日の演劇夏季学校(第43回「博報賞」受賞)でも繰り返して重ねられる。

「現在の教育現場の課題のひとつは、『個』で完結してしまうこと。共同作業でひとつの作品に仕上げる演劇は、子どもたちが今の時代、そしてこれからの時代を生き抜く力になると信じています。表彰式では、涙涙、誰もが自己肯定感に満ちた、とてもいい顔を見せてくれます」(原口会長)

今回、最優秀府知事賞に輝いたのは、発達障害をテーマにした和泉市立北池田中学校の作品『普通は』。自分たちを取り巻く課題から目を逸らさず、理解しようとする姿勢が評価された。表彰後、会場の片づけをしながら、受賞校も借しくも受賞を逃した学校の生徒も、その表情は一樣に達成感に輝いていた。



見事、最優秀府知事賞に輝いた和泉市立北池田中学校の演劇部の生徒と顧問の関谷佳美教諭(戯曲賞も受賞)。生徒たちは「まさか賞をもらえるなんて！」と大粒の涙をこぼした。

# 創作劇を通して中学生の創造性と表現力、総合的な生きる力を育む 70年におよぶ演劇教育活動

1947年の設立以来、長きにわたり、中学生の身近な課題を掘り起こし、考え、表現する創作劇活動を推進してきた大阪府中学校演劇協会。毎年2回、演劇祭を実施し、演劇夏季学校も開催しているその取り組みに、博報賞が贈られた。



最優秀朝日放送賞を受賞した堺市立南八下中学校の「密室」の一幕。SNSに翻弄される子どもたちを描いた。



子どもたちの達成感があふれる表彰式。



「演劇祭を続けられてきたのが私たちの誇り」と語る原口貴美子会長。

### 推薦者 お祝いのことば

博報賞受賞おめでとうございませう。心よりお祝い申し上げますとともに演劇活動を学校教育の中にと願って続けてきた私どもにとっても大きな喜びでもありました。教育の効果が見えにくい演劇活動について認めて頂き、光を与えて下さった審査委員の方々にお礼を申し上げます。この受賞は、70年以上にもわたって演劇教育に取り組んでこられた大阪府中学校演劇協会の先生方の努力と継続の賜物と言えます。この受賞を機会に、貴協会の今後のますますの発展を願うとともに、全国の演劇教育に関わる先生方にその研究と実践を発信されていくことを期待しています。

森田勝也 会長



演劇祭の裏方は、すべてOB、OGのボランティア。